



芸術文化振興基金助成事業

郡山市

民俗芸能

大会

高倉の人形浄瑠璃(日和田町)
豊景神社の太々神楽(富久山町)
岩代国郡山うねめ太鼓(片平町)
柳橋の歌舞伎(中田町)

令和3年

2月21日(日)

けんしん郡山文化センター 大ホール
(郡山市民文化センター)

開場:午後0時30分/開演:午後1時30分

【主催】

郡山市 / 郡山市教育委員会

公益財団法人郡山市文化・学び振興公社(郡山市民文化センター指定管理者)

【後援】

福島民報社 / 福島民友新聞社

福島テレビ / 福島中央テレビ / 福島放送 / テレビユー福島

ラジオ福島 / ふくしまFM / 郡山コミュニティ放送

プログラム

高倉の人形浄瑠璃(日和田町)

復活!高倉人形プロジェクト実行委員会

豊景神社の太々神楽(富久山町)

豊景神社の太々神楽保存会

岩代國郡山うねめ太鼓(片平町)

岩代國郡山うねめ太鼓保存会

休 憩

柳橋の歌舞伎(中田町)

柳橋歌舞伎保存会

高倉の人形浄瑠璃

日和田町

団体名 ● 復活!高倉人形プロジェクト実行委員会

所在地 ● 日和田公民館内(郡山市日和田町字小堰23-4番地)

代表者 ● 実行委員長 仲本武司

日和田町には、江戸時代中頃から人形浄瑠璃の一座があり、高倉地区を拠点としていたため、「高倉人形」(福島県重要有形民俗文化財)と称し、興行していました。一座は明治26年に解散し、人形浄瑠璃は伝承されることなく人形だけが残りました。

時代の流れと共に地域コミュニティは希薄になり、住民の地域への愛着や帰属意識は低下するばかりです。そこで、地域住民が主体となり実行委員会が結成され、わが町独自の伝統文化であった人形浄瑠璃を復活し、地域コミュニティの活性化の一助にすべく、小中学生から高齢者まで、共に学び教えあい活動しています。毎年開催している発表会においてくださる皆様の激励を糧に、更なる技術の向上に励んでいます。

出演者

お弓(母)

主遣い……………日下 正

左遣い……………桑名静子

足遣い……………橋本昭子

口上……………品竹悦子

お鶴(娘)

主遣い……………橋本 誠

左遣い……………大越幸子

足遣い……………青山佳子

補助……………伊藤勝男

遠藤成子

鈴木 章



本日の演目

● 人形浄瑠璃「けいせい※あわ 傾城阿波の鳴門 なると 順礼歌の段 じゅんれいうた 順礼歌の段 だん」

この物語は、阿波藩の藩主・玉木家の若殿が高尾という美人に溺れているのを幸いに悪臣がお家横領を企てるというものです。全部で十段の構成で「順礼歌の段」はそのうちの八段目です。

※傾城…城主が政治をないがしろにするほどの美しい女性の意味

あらすじ

十郎兵衛・お弓の夫婦は、徳島の玉木家の家宝国次(くにづく)の刀を探すため、大阪の玉造に住み、十郎兵衛は名前も銀十郎と変え盗賊の仲間に入っていました。

お弓が夫の無事と刀の発見を神仏に願をかけているところに、順礼の娘が訪れます。国許(くにもと)に残してきた自分の娘と同じ年頃なので、話を聞いてみると両親を探して徳島からはるばる旅をしてきたという身の上を語ります。両親の名前を聞いてみるとまちがいなく自分の娘であることがわかりました。今すぐに抱きしめ母と名乗りたい思いを抑え、盗賊の罪が娘に及ぶことを恐れて、国へ帰るように諭します。

このままここにおいて欲しいと頼むお鶴を、お弓は泣く泣く追い返します。お鶴の歌う順礼の歌が遠のくと、お弓はこらえきれずに泣き崩れるのでした。しかし、このまま別れてはもう会えないと思い直し、急いでお鶴の後を追います。

豊景神社の太々神楽

富久山町

団体名 ● 豊景神社の太々神楽保存会
所在地 ● 郡山市富久山町福原字福原1番地
代表者 ● 会長 伊藤和行 楽長 渡辺勝美

豊景神社の太々神楽は富久山町福原に鎮座する「豊景神社」に伝わる神事です。
神楽は遠い昔より行われていたとみられ、記録としては、天保・弘化・嘉永・安政の時代
のものが残されており、少なくとも180年前には行われていました。

当時は近隣地区の神職が行っていたが、現在は豊景神社の氏子により代々受け継が
れ現在に至ります。

出演者

楽長 渡辺勝美
副楽長 八代一弘

渡辺光昭・橋本和彦・星 正浩・古河孝広・八代文紀・中田 悟・八代 聖
山入浩一・佐久間宏治・渡辺正憲・渡辺英治・中田幸治・高田圭一
橋本幸治・源後 毅・関 実・柳沼耕一郎・渡辺幸一・古戸三十志



本日の演目

しほうがためがく あめのわかひこのみこと

1. 四方堅楽(天若比日命)

荒ぶる神々を治め、国づくりに尽力する楽

※全演目の中で唯一口上あり。

しじんさいがく くくのちのかみ かなやまひこかみ かぐつちのかみ みずはのめのかみ

2. 四神祭楽(久々能知神・金山彦神・火具槌神・水波能売神)

木・金・火・水の神々が日々の恵みに感謝する楽

かしま すわがく たけみかづちのかみ たけみなかたのかみ

3. 鹿島・諏訪楽(武甕槌神・建御名方神)

二柱の神々による国譲りの様子を表した楽

「豊景神社の太々神楽」は全28座からなり古事記に則り構成されています。前半は、高天原での神々の暮らしを表しており、後半では田植え・稲刈り・収穫と農耕に関わる楽が多く、人々の生活を表しています。

各演目において面・衣装・楽・採物が変わり、勇壮な楽・優雅な楽・ユーモラスな楽と様々な演目により構成されています。

岩代國郡山うねめ太鼓

片平町

団体名 ● 岩代國郡山うねめ太鼓保存会
所在地 ● 郡山市片平町字樋口14番地
代表者 ● 会長 吾妻五子

平成6年1月、当時は全国でも珍しい女性だけで結成された団体です。

長野県御諏訪太鼓より指導を頂いて現在に至ります。

うねめまつりを東北5大まつりにするために、毎年開催されている「郡山うねめまつり」をはじめ、「郡山市こどもまつり」、「郡山シティーマラソン」の応援太鼓など県内外の各種イベントに参加して郡山市をアピールしております。

今年は新型コロナウイルス感染拡大防止等によりたくさんのイベントが延期や中止となり気持ちが減入っている方も多いかと思います。

私達の演奏を見て聞いて少しでも心が休まればと思います。

心ひとつにして演奏いたしますので、ご声援を宜しくお願いいたします。

出演者

吾妻五子・遠藤光枝・深江恵子・松崎千鶴子・角田静江・大河原敬子
佐久間聡美・額賀史子・皆川幸子・添田はな・池上久美子・遠藤佳代子
滝田洋子・橋本幸子



本日の演目

みしゃぐうじやぶさめ
1 曲目: 御射宮司流鏑馬

流鏑馬は疾走する馬上からの的に鏑矢(かぶらや)を射る、日本の伝統的な儀式です。県内では古殿町の流鏑馬が有名です。その様子を太鼓で表現しています。

こ はならんぶ
2 曲目: 鼓の華乱舞

宗家である御諏訪太鼓より、うねめ物語を題材にして作って頂いた保存会のオリジナル曲です。

春姫と小糠次郎の悲恋物語が万葉集で詠まれており、成し遂げられなかったふたりの思いを太鼓で表現出来ればと思います。

柳橋の歌舞伎

中田町

団体名 ● 柳橋歌舞伎保存会
所在地 ● 郡山市中田町柳橋字町205番地
代表者 ● 会長 宗像亀明

柳橋歌舞伎は、阿武隈高地の山ひだに抱かれた郡山市中田町柳橋に、江戸時代から連綿と受け継がれてきたものです。

柳橋に歌舞伎がどのように伝わったか記録などはありませんが、江戸時代天領で比較的年貢の取り立ても穏やかであったため芸事が盛んに行われたといわれています。

文化文政期、言い伝えによると旅芸人が当地に長い間住み続けていたといわれ、おそらくこの人達によって歌舞伎が伝えられたのではないかと思います。1820年(文政3年)中村代之丞が菅布禰大明神に歌舞伎を奉納したのが柳橋歌舞伎の始まりとされています。

昭和58年郡山市指定重要無形民俗文化財に指定され、平成15年には江戸時代から受け継がれてきた衣装を含めた歌舞伎衣装17点が郡山市指定重要有形民俗文化財に指定されました。現在演じられる外題は、絵本太功記・義経千本桜・一谷嫩軍記など13題を数えています。

出演者

武智十兵衛光秀(明智光秀) ……………	宗像善夫	家来……………	宗像剛咲・七見 忠
光秀の子 十次郎光義 ……………	宗像貴将	義太夫……………	伊藤 薫
光秀の母 皐月(さつき) ……………	宗像幸雄	三味線……………	藤本秀建
光秀の妻 操(みさお) ……………	宗像大吉		安田良雄・吉田紀子
十次郎の許嫁 初菊(はつぎく) ……………	宗像重男	つけ……………	長岡守男
真柴筑前守久吉(羽柴秀吉)……………	吉田孝志	黒子……………	根本安太郎
加藤正清(加藤清正) ……………	横田利也		吉田辰一・宗像 徹



本日の演目

えほんたいこうきじゅうだいま あまがさきかんきよ ば
● 絵本太功記十段目 尼ヶ崎閑居の場

絵本太功記は、武智光秀(明智光秀)の謀反から滅亡までを物語ったものだが、太功記の中で一番良くしられているのが十段目で、太十と略称されている。

幕は、尼ヶ崎の光秀の母の家で、一子十次郎が許嫁の初菊との仮祝言と初陣を兼ねて盃を交わし、戦場に出て行く。その後、夕顔棚のかげより光秀が現れ、竹槍を作り湯殿に写る人影を障子越しに突く。光秀の家に僧侶が宿を借りていたが、光秀は旅僧を真柴久吉(羽柴秀吉)と知って彼をねらったのであった。しかし引き起こしてみると以外にもそれは久吉ならず母の皐月であった。

皐月は痛傷に苦しみながら、光秀の非行を嘆き悲しみ諫めているところへ、傷を負った十次郎が戻って来て、敗戦の様子を知らせ皐月とともに死んでいく。

さすがの光秀も母と子を一度に亡くした悲しさは隠しきれず、大泣きに泣く。妻の操は、光秀が善心に立ち返るよう諫言するが、光秀は怒って立ち上がる。そこへ久吉の軍勢が押し寄せてくる。が、光秀と久吉は、後日天王山にて勝負の雌雄を決しようと約束し、戦わずして分かれて行く。

(注) 歌舞伎では、羽柴秀吉を真柴久吉と呼び明智光秀を武智光秀と呼んでいる。

郡山市の民俗芸能概観



むかしから、各地で、伝承的に行われている芸能を近頃になって、民俗芸能というようになった。

ある特殊な名人芸に発した、芸術的に組み立てられた芸能とちがって、村の人々が、鎮守の祭りや年中行事に折りこんで、信仰的に行なわないではおれないという気持ちで、受けつがれてきた芸能の意である。

ひなびてはいるが、これには日本文化の源流、農耕文化の基底をなす、香り高いものがあり、日本人の生きてきた心の伝統が流れているので、流行的に流れ去るものでもなく、古人は、これを大切に固持してきている。

日本民族の文化として貴重なものである。

最近民俗芸能の調査研究が進み、福島県でも、「福島県史23民俗1」に民俗芸能の編をとりあげて一応の分類を掲示している。

これは、福島県出身の本田安次著「図録日本の民俗芸能」などを参照にして、福島県内の各種の分布などから組まれたものであるが、郡山市内のもは、その伝承されている種類・特性などから次のように分類出来る。

- ① 風 流 三匹獅子舞
- ② 神 楽 太々神楽、太神楽・地神楽、悪魔はらい獅子
- ③ 田植踊 田植踊、予祝芸

三森峠を越えた湖南地方には、会津系統を思わせる館の早乙女踊が含まれ、合併された東の阿武隈山地の山ひだの細かな村々には、三匹獅子舞その他数多くの芸能が保存されている。

福島県の芸能文化の流れをみると、関東から阿武隈川沿いに入った流れと、久慈川の流れに沿って入って来た流れとが考えられる。この二つの流れは須賀川・郡山方面で合流して芸能文化になっている。

前者には、天道念仏踊や太々神楽などにその形をみる事が出来る。

後者では三匹獅子舞などをあげることが出来る。また、多田野の鍬柄踊や平鍬踊などは、合流文化の系統のようにみえる。

明治維新から初年にかけての日本文化の飛躍的發展、特に外からは欧米文化が流入し、内では部落組織の変化などで、無造作に伝統文化を放棄したことがあったようである。

後に古老の信仰の郷愁的なものから、隣村のものを見まねて復元さえしているのがある。

しかし、第二次世界大戦とその終戦による生活の窮乏と伝統精神の衰退で、これら民俗芸能は次第に消滅の方向へ向かっていった。

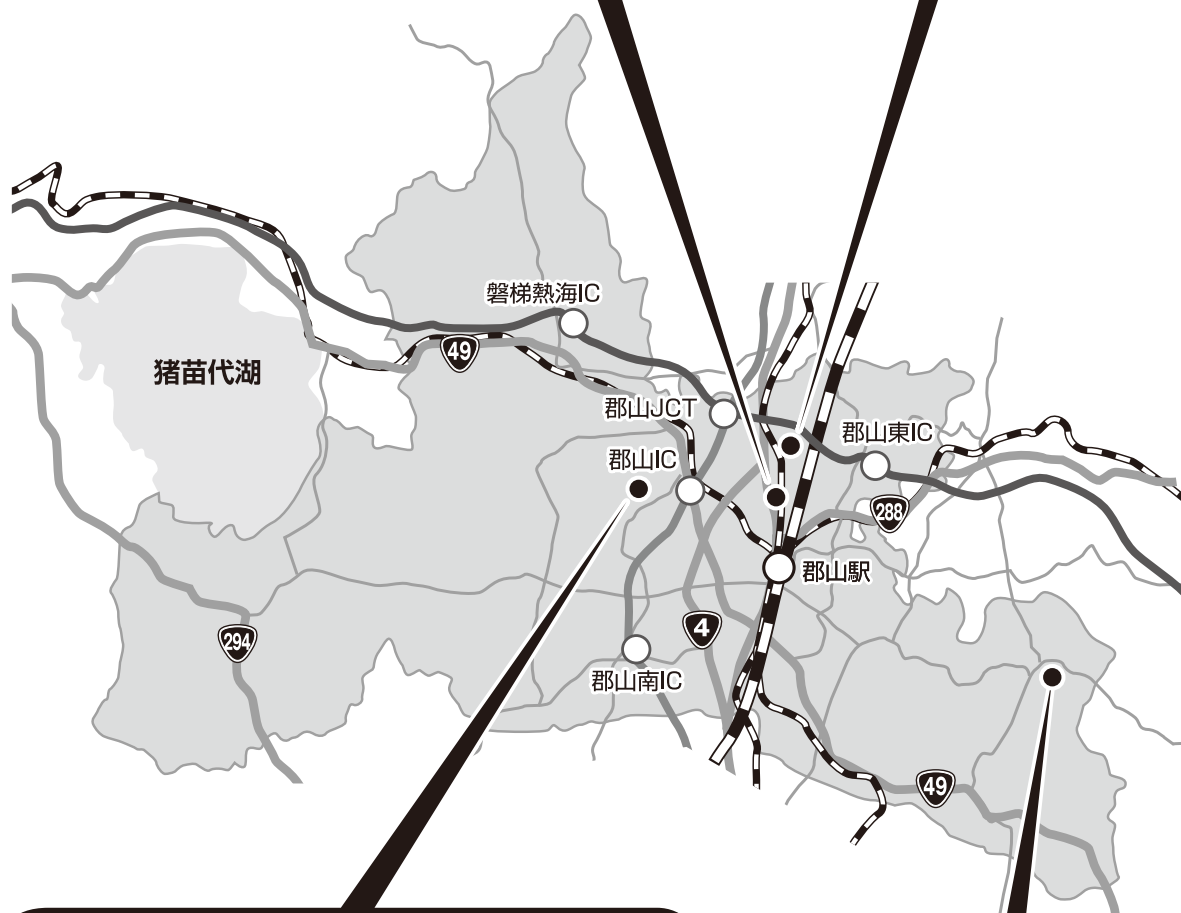
だが、ようやく生活や社会に安定がみえはじめると、民俗芸能の価値を再認し、近年にいたり、これらの保護への対策も見えはじめた。

このあらわれとして、郡山市では昭和三十一年九月、文化財保護条例ができて、無形文化財として、まず音路の三匹獅子舞を指定保護することにした。つづいて湖南町の館の早乙女踊・糠塚の獅子舞を指定して、その保護と貴重さの認識につとめている。

「郡山市史7民俗」より

高倉の人形浄瑠璃

豊景神社の太々神楽



岩代國郡山うねめ太鼓

柳橋の歌舞伎

郡山市内の指定重要無形民俗文化財

指定区分	名称	種類	所在地
県指定	湖南の会津万歳	万歳	湖南町中野
	豊景神社の太々神楽	太々神楽	富久山町福原字福原
市指定	音路の獅子舞	三匹獅子	富田町字音路
	館の早乙女踊り	田植踊り	湖南町館
	岩倉の獅子舞	三匹獅子	片平町岩倉
	糠塚の獅子舞	三匹獅子	田村町糠塚
	柳橋の獅子舞	三匹獅子	中田町柳橋
	北高倉の獅子舞	三匹獅子	中田町高倉(北高倉地区)
	南高倉の獅子舞	三匹獅子	中田町高倉(南高倉地区)
	木目沢の獅子舞	三匹獅子	中田町木目沢
	深谷のヨーサ踊り	田植踊り	片平町深谷
	多田野の鍬柄舞田植踊り	田植踊り	逢瀬町多田野
	篠坂の神楽	獅子神楽	中田町柳橋(上・下篠坂地区)
	高柴の七福神踊り	七福神踊り	西田町高柴
	柳橋の太々神楽	太々神楽	中田町柳橋
	柳橋の歌舞伎	歌舞伎	中田町柳橋
	富岡の唐傘行灯花火	年中行事	三穂田町富岡
	笹川のあばれ地蔵	年中行事	安積町笹川
横沢の麓山まつり	年中行事	湖南町横沢	



この印刷物はFSC®認証紙です。紙リサイクル可。